

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00084

研究課題名(和文) 古代哲学史研究への新たな視座 「教導」の体系に関するアウグスティヌスの洞察

研究課題名(英文) A New Approach to Late Antique Philosophy: Augustine's Contribution to Christian Psychagogy

研究代表者

上村 直樹 (Kamimura, Naoki)

東京学芸大学・教育学部・研究員

研究者番号：40535324

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ヨーロッパ古代哲学史研究に変革をもたらした哲学史家ピエール・アドによる「精神の修練」研究が犯した哲学的なアナクロニズムを克服するために、アウグスティヌスの『説教』と『書簡』を中心に分析を進めた。そして「教導」とは、精神の修練という古典的で究極的な目的を設定しつつも、近接的な目的として普遍的に全ての魂にふさわしい修練の場である聖書解釈への習熟を設定することにおいて勝義にキリスト教的な観点から規定されることを明らかにした。

本研究は、国際研究ネットワークを活用し、国際学会において研究成果を継続して発表し、オーストラリア、米国、カナダ、シンガポール、香港の研究者との相互交流を推進した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、古代のキリスト教思想家を代表するアウグスティヌスの思想を古代哲学の伝統のなかで捉え直すことによって、未開拓の主題である「教父思想における「教導」という体系の意義と可能性」を扱うという独自性を有する。また、古代ヨーロッパ史・初期キリスト教研究における諸研究の成果との架橋に着手し、従来の研究動向の偏りを修正するという独自性を有する。これら二つの独自性によって、古典古代・ヘレニズムの哲学的な営みを捉えるための、またアウグスティヌスの思想を北アフリカ教父思想の展開のうちに位置づけるための新たな研究の可能性を開くことを可能にした。

研究成果の概要(英文)：This research project analyses Augustine's Sermons and Epistles intending to overcome the anachronisms in the history of philosophy committed by the study of the "Spiritual Exercises" by the French historian of philosophy Pierre Hadot, who revolutionised the study of the history of ancient philosophy. This project reveals that the concept of "psychagogy" is defined from a Christian perspective, with the ultimate goal of the "spiritual exercises" from the perspective of ancient Greek philosophy, set alongside the proximate goal of scriptural interpretation, which represents a place of inquiry appropriate to all human beings.

This project has been collaborative, leveraging my established international research network. I have continued to present research findings at international conferences, fostering mutual exchanges with esteemed researchers in Australia, the USA, Canada, Singapore, and Hong Kong. This collaborative approach has enriched my research and broadened my perspectives.

研究分野：人文学

キーワード：アウグスティヌス 教父 キリスト教 古代末期 心性 精神の修練 教導 自己への配慮

### 1. 研究開始当初の背景

古代地中海世界に生きた人々の人間の「生き方」への関心は、古代哲学史を劃することになったソクラテスによって引き起こされ、古代末期にいたるキリスト教の伸長のなかで魂の陶冶に関する教父の多様な言説を産み出した。この関心事が展開する過程は、古代ヨーロッパ史・古代哲学史・初期キリスト教研究という研究領域のなかでそれぞれに固有の仕方でも考察されてきた。20世紀後半の研究動向に目を向ければ、「心性」に着目したアナール学派の歴史認識のもと古代人の生と死に対する態度が解明されてきた。古代哲学史の領域では、古代哲学における理論と実践の統合は「精神の修練」に根拠づけられるという哲学観を古代哲学史家ピエール・アドが提唱し、さらにフォーコーが「生き方」を変容する「自己への配慮」の系譜に着目したことによって、「生き方としての哲学」という主題を哲学的に解明する研究が活況を呈するようになった。これら一連の動向と連動するかのよう、初期キリスト教研究の領域においてもキリスト者の「生き方の模範」に関する研究が進展し、魂の陶冶のプログラムについての関心が高まりつつある。

本研究の研究代表者・上村直樹は、2011年度からの科研費研究を通して、相互に異なる問題場面で一見分裂しているかに見える人間の「生き方」をキリスト教的な「心性」のもとに収斂しようとする教会共同体の指導者である司教の言説に着目した。また2014年度からの科研費研究ではこの「心性」を地域の実態と関連づけて分析し、異教社会に囲まれたキリスト教共同体の成員に対して「心性」を統括するように勧告する司教の多彩なメッセージを可視化した。さらに2017年以降の研究を通して分析の射程を教父テルトゥリアヌス、キプリアヌス、ヒエロニムスへと延ばし、地域共同体の指導者でもあった彼らによる「書簡」と「説教」というツールの活用において、社会変動のなかで異教とキリスト教の緊張関係の改善を目指す所以を理解し、人間の「生き方」を理論と実践の統合のもとに捉えようとする態度を見出すにいたった。

欧米を中心に活発なアウグスティヌス研究において近年注目されるのは、4-5世紀の実態が社会的、文化的、宗教的な観点からいっそう明らかにされることで、アウグスティヌスの思想の生成と変容を新たな視座のもとに捉える研究があらわれはじめたことである。とはいえ、歴史学、哲学、教父学の領域において、それぞれに問われてきた人間の生についての研究を相互に架橋し、より広汎な視座から古代人の心性を解明しようとする試みは緒についたばかりである。

### 2. 研究の目的

本研究は、プラトン以降ヘレニズム哲学諸学派へ継承される一方、新約聖書から教父までの魂の陶冶の系譜に連なる「教導」psychagogyに焦点を合わせる。「教導」とは指導者や友人が言表行為によって魂を導くことである。導かれる者が有する誤った信念を論駁し説得するよりは、真実を知らしめて「魂」を知恵へ導くことを可能にするゆえに、その者の「生き方」を変える術として機能すると見なされてきた。この体系が「精神の修練」を包摂しつつも社会的な紐帯のなかでの実践的な選択を通じた「生き方」を涵養していると仮設したうえで、研究課題の核心として「教導」について教父アウグスティヌスが提示した言説とそれを支える論理とは何かを設定する。この設定において、問題は三項にまとめられる。

- A. アドの「精神の修練」研究とフォーコーの「自己への配慮」研究の孕む問題性とは何か
- B. アウグスティヌスにおける「精神の修練」「自己への配慮」とは何か
- C. アウグスティヌスにおける「教導」とは何か

「生き方」に関する従来の研究の方法上の錯誤とその所以を解明し、古代世界の修練と配慮の系譜を踏まえたうえで、言表行為の体系「教導」の有する意義と可能性を考察する。

### 3. 研究の方法

魂を知恵へ導く「教導」の体系がアウグスティヌスの思想に組み込まれていることを明らかにするとともに、アドとフォーコーによる研究における方法上の誤謬を検証することに取り組む。分析対象として、

テキスト1. アウグスティヌス「書簡」集(現存テキスト約300通);

テキスト2. アウグスティヌス「民衆向け説教」集(現存テキスト約600篇)

これら2つのジャンルを扱う。これらが「精神の修練」に繰り返し言及するとともに、導く者と導かれる者の関係性において「教導」についてアウグスティヌスが提示した言説とそれを支える論理を解明するのに最適な分析の対象だからである。

分析作業の工程を省力化するために、先行科研費のもとで使用可能なフルテキスト・データベース Library of Latin Texts を活用する。またジャンルの異なるテキスト(アウグスティヌス全集・西洋古典テキスト・ラテン語訳聖書)を有機的に参照・同定するため、データベース Corpus Augustinianum、Bibliotheca Teubneriana Latina、Vetus Latina Database を援用する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 2021 (R3)年度

研究初年度にあたって研究代表者・上村直樹は、研究計画において言及した研究第1段階である2021年度に先行して取り組む課題Aと研究第2段階である2022年度に引き続いて取り組む課題Bについて、COVID-19の世界的な感染拡大状況が改善せず国外ヨーロッパにおいて実施すると計画していた文献資料調査の遂行が困難であることを踏まえて、それらの課題に取り組む順序を逆転し、先行して課題B「アウグスティヌスにおける「精神の修練」「自己への配慮」とは何かについて、テキスト1: アウグスティヌス「書簡」集とテキスト2: アウグスティヌス「民衆向け説教」集を分析する」に取り組んだ。

まず2021年5月に開催された古代末期の宗教・医療に関する研究グループが主宰したStandalone Conferenceにおける発表の準備において「テキスト1: アウグスティヌス「書簡」集」を取り上げ、アウグスティヌス書簡研究の最新動向について調査を進めながら「自己への配慮」と医学的な表象との連関について考察した。つづいて同じ5月末に開催されたカナダ教父学会において「テキスト2: アウグスティヌス「民衆向け説教」集」を取り上げ、アウグスティヌス説教研究の最新動向について調査を進めながらキリスト教的な「精神の修練」と古代末期の社会の実態との関係について考察した成果を発表した。

10月後半にオンライン形式で開催された第15回台湾西洋古典・中世研究・ルネサンス研究学会における発表では「テキスト1: アウグスティヌス「書簡」集」を取り上げ、「自己への配慮」としての魂の遍歴というテーマの展開を書簡テキスト全体のなかに追跡することによって、魂論と「自己への配慮」との連関について考察した。

##### (2) 2022 (R4)年度

研究第二年度にあたって研究代表者は、COVID-19の世界的な感染拡大によって変更した研究計画のもと、順序を入れ替え先行させる課題B「アウグスティヌスにおける「精神の修練」「自己への配慮」とは何かについて」と、後続する課題A「アドの「精神の修練」研究とフォーコーの「自己への配慮」研究の孕む問題性について」それぞれについて、遂行した成果の一部を国外においてオンライン形式によって開催された学会において発表した。

まず2022年5月に開催された北米教父学会における発表の準備において、アウグスティヌスの主著の一つ『神の国』研究の最新動向について調査を進めながら「自己への配慮」について考察し、その成果を発表した。つづいて同じ5月末に開催されたカナダ教父学会における発表の準備において、課題Aに関連する鍵概念「パレーシア」に関する研究動向について調査を進めながら「殉教」と古代末期のキリスト教的な心性の関係について考察し、その成果を発表した。そして各々の機会における研究者からの批判と意見交換を通して、課題Aと課題Bを相補的に検討するという本研究の妥当性を検証した。

年度後半には北米教父学会の機関誌であるJournal of Early Christian Studies編集委員から依頼された書評の執筆を通して、当初の研究計画において設定していた研究第3段階の課題C「アウグスティヌスにおける「教導」とは何か」に着手するとともに、課題Bをアウグスティヌスの主著『神の国』の分析との連関において考察するという研究計画の拡張可能性について検討した。

##### (3) 2023 (R5)年度

本研究の最終年度においては、これまでに明らかになった問題を検討するとともに、全体の研究成果をまとめ、海外諸学会においてその成果を発表するとともに、成果の一部として前年度に準備した書評を北米教父学会の機関誌であるJournal of Early Christian Studiesから公刊した。

まず5月末に開催されたカナダ教父学会において、前年の『神の国』に関する「教導」と修辞の手法との連関という研究計画の拡張可能性という課題の考察を進め、その成果を発表した。そして研究者からの批判と意見交換を通して、その可能性が妥当であるかを検証した。ついで9月初旬にシンガポールにおいて開催された、国外の対面形式の学会として4年ぶりになるアジア環太平洋初期キリスト教学会に参加し、古代末期のキリスト教的な心性と医療の現場という、アウグスティヌスの修辞的な手法を具体的に探る試験的なテーマを取り上げ、その成果を発表した。また、対面形式での活発な議論によってこれまでの科研の方向について、主として、オーストラリア、シンガポール、香港から参加した研究者からの助言と対話を重ねることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

|                                                                                                            |                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Naoki Kamimura                                                                                   | 4. 巻<br>31/4          |
| 2. 論文標題<br>Book Review: Politics and the Earthly City in Augustine's City of God. By Veronica Roberts Ogle | 5. 発行年<br>2023年       |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Early Christian Studies                                                               | 6. 最初と最後の頁<br>575-576 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1353/earl.2023.a915035                                                       | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                                                                     | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 7件）

|                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>Naoki Kamimura                                             |
| 2. 発表標題<br>The cura animarum of Augustine in the City of God          |
| 3. 学会等名<br>North American Patristic Society 2022 Annual Meeting（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2022年                                                       |

|                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>Naoki Kamimura                                                                   |
| 2. 発表標題<br>Martyrdom in time of peace and the relation of Christian identities to parrhesia |
| 3. 学会等名<br>Annual Meeting of the Canadian Society of Patristic Studies（国際学会）                |
| 4. 発表年<br>2022年                                                                             |

|                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>Naoki Kamimura                                                                                                       |
| 2. 発表標題<br>Medical Imagery and the cura animarum in the Letters of Augustine                                                    |
| 3. 学会等名<br>Working Group for Religion, Medicine, Disability, Health, and Healing in Late Antiquity, Standalone Conference（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2021年                                                                                                                 |

|                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>Naoki Kamimura                                                            |
| 2. 発表標題<br>Augustine 's Quest for Peace and its Relevance in his Sermones ad populum |
| 3. 学会等名<br>Annual Meeting of the Canadian Society of Patristic Studies ( 国際学会 )      |
| 4. 発表年<br>2021年                                                                      |

|                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>Naoki Kamimura                                                                                                           |
| 2. 発表標題<br>" Peregrinatio " as Spiritual Formation in the Letters of Augustine                                                      |
| 3. 学会等名<br>The Fifteenth International Conference of the Taiwan Association of Classical, Medieval and Renaissance Studies ( 国際学会 ) |
| 4. 発表年<br>2021年                                                                                                                     |

|                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>Naoki Kamimura                                                       |
| 2. 発表標題<br>Augustine 's City of God and its Psychagogical Function              |
| 3. 学会等名<br>Annual Meeting of the Canadian Society of Patristic Studies ( 国際学会 ) |
| 4. 発表年<br>2023年                                                                 |

|                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>Naoki Kamimura                                                                        |
| 2. 発表標題<br>The healing imagery and its function in Roman North Africa                            |
| 3. 学会等名<br>APECSS 13th Annual Conference ' Pluralistic Contexts in Early Christianity ' ( 国際学会 ) |
| 4. 発表年<br>2023年                                                                                  |

|                                                |
|------------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>上村直樹                                |
| 2. 発表標題<br>古代末期の教父におけるプルタルコス                   |
| 3. 学会等名<br>第17回ICU哲学研究会シンポジウム《プラトニズムの系譜》（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2024年                                |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 「古代哲学史研究への新たな視座 「教導」の体系に関するアウグスティヌスの洞察」URL: <a href="https://kmmrnk.com/gasr2021-2023/">https://kmmrnk.com/gasr2021-2023/</a><br>2. 英語版ウェブサイト「2021-2023 Grant-in-Aid for Scientific Research C」URL: <a href="https://kmmrnk.com/research/2021-2023gasr/">https://kmmrnk.com/research/2021-2023gasr/</a> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                           |                       |    |
|---------------------------|-----------------------|----|
| 6. 研究組織                   |                       |    |
| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

|         |         |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|